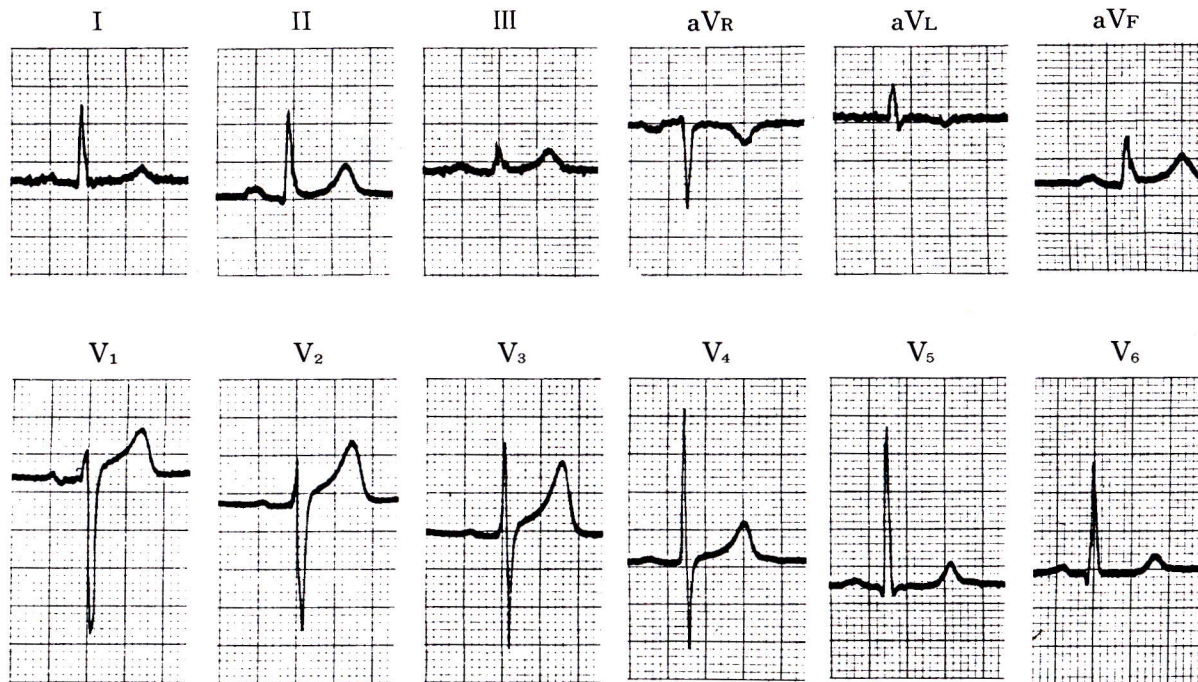


# 症例 55

●43歳 男

●糖尿病，慢性腎不全(Kimmelstiel-Wilson症候群)の患者で，経過観察のために記録したもの．



1) この心電図をどうみるか．

V<sub>1</sub>のS波とV<sub>6</sub>のR波を加えると41mmであり、左室肥大の基準を満足する。V<sub>5</sub>、V<sub>6</sub>のT波がやや低い、R波の $\frac{1}{2}$ は超えており、有意なST低下もみられない。aV<sub>L</sub>の陰性T波もR波の振幅

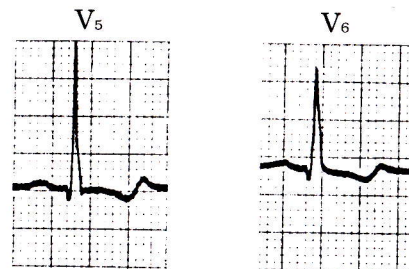
が小さいため、所見としてはとれない。しかし、V<sub>5</sub>、V<sub>6</sub>のST水平部が長く、T波の陽性部分の幅が狭いことに注目したい。

## MEMO

## 〈ST segmentのprolongation〉

陽性T波が存在する誘導ではST segmentは緩やかに上昇してT波に移行するが、ST segmentが水平のまま（基線上）でつづき、幅の狭い陽性T波に移行するパターン（前ページ：設問のV<sub>5</sub>、V<sub>6</sub>）をST segmentのprolongationといい、2相性～陰性T波へ移行する過渡状態である可能性がある。

右の心電図は前ページの症例の半年後のV<sub>5</sub>、V<sub>6</sub>であり、陽性T波が2相性T波に変化している。



前ページ(設問)症例  
の半年後のV<sub>5</sub>、V<sub>6</sub>